

出題分析			
試験時間	80分	配点	150点
		大問数	6題
分量 (昨年比較)	[減少 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 同程度 <span style="border: 1px solid black;">難化</span> ]
<p><b>【概評】</b>例年通り試験時間に対して設問数が多いセットである。昨年と比べて計算量は同程度なものの場合分けや緻密な数値計算が求められ、制限時間内に完答するのは難しいと思われる。数列、空間図形、確率、微分積分など昨年と同じ分野の出題が目立つ。</p> <p>形式面は英語と共に足切りに用いられる前半3題マーク式と、基準点に達した場合に採点される後半3題記述式である。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
[1]	(1) 三角関数 (2) 整数	(1) 具体的な角度がわからない三角関数に関する問題。長さや面積を三角関数で表す。倍角の公式などを使えば良い。同じような作業の繰り返しである。 (2) 絶対値の入った不等式に関する整数問題。誘導の通りに場合分けをして絶対値を外せばよい。	やや易
[2]	数列	特殊な和が与えられた数列に関する問題。基本的には誘導に従って計算すればよいが、(3)の $k$ が1の時の扱い、部分分数分解が少し難しい。	標準
[3]	確率	コインの表と裏によって、座標平面を決められたように移動する確率の問題。原点や座標軸上にある確率が問われているので、対称性にうまく注目して場合分けをすればよい。	標準
[4]	微分法・指数・対数 整数	放物線の接線と直線との交点の $x$ 座標が1以下になるといった条件を満たす整数の最大値に関する問題。(1)(3)は基本問題なので正解したい。(2)は $N$ が最大の整数ということの読み替えがポイントとなる。(4)は概算でも答えは合うだろうが厳密な論証は難しい。(4)は試験としては機能していないはずだ。	やや難

設問別講評			
[5]	円の接線 空間ベクトル	座標空間内の球に関する問題だが(1)(2)は座標平面上の円の接線を求める問題。(3)以降は空間ベクトルの問題となる。(4)の計算がやや大変である。現実には、合格者も含めて、出来具合は壊滅的だろう。	やや難
[6]	積分	放物線の面積に関する問題。(1)はいわゆる1/6公式を使えば求まるが、しっかり積分計算をすることが求められている。(2)はABの長さが3ということを用いて表しうまく整理すればよい。(3)は背理法で示せばよい。	標準

#### 合格のための学習法

例年、慶應経済の数学は大問6つに対して試験時間80分である。すなわち大問1つにつき15分もかけられない。慶應経済の数学の難易度では完答はほとんど不可能に近いので、計算力を精度とスピードのどちらの面からも上げていくことが重要である。試験時間に対して問題量が多いのでしっかり時間配分を考えて問題を解くこと。どの問にも易しい小問が含まれているので確実に得点をするようにしたい。一部難しい問題も含まれ、試験時間が厳しいので、過去問演習を通じて、難易度を見極めてどの問題を解くかという問題の取捨選択の練習をし、試験本番に備えると良い。なお、[4],[5],[6]については[1],[2],[3]と英語の一部の問題が一定以上できてないと採点されないことにも注意すること。